

あらいえびすがわ

洗 戎 川 水 系 河 川 整 備 計 画

平成 28 年 5 月

兵 庫 県

目 次

第1章 河川整備計画の目標に関する事項	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 河川整備の現状と課題	2
1. 治水の現状と課題	2
2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題	3
第3節 河川整備計画の目標	4
1. 河川整備計画の対象区間	4
2. 河川整備計画の対象期間	4
3. 洪水、高潮、津波等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	4
4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 河川環境の整備と保全に関する目標	4
第2章 河川の整備の実施に関する事項	5
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要	5
第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所	8
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	8

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

洗戎川は、夙川、東川に挟まれた両河川の扇状地を流れ、河口の西宮港から大阪湾へ注ぐ、流域面積約0.8km²、河川延長約1.5kmの二級河川である。

河川勾配は緩く、国道43号より南側では約1/1,000である。

洗戎川は、法定河川上流端の国道2号から市街地内を直角に曲がりながら流れて、西宮神社の下流で暗渠となる。国道43号付近で下水道の洗戎川雨水幹線と合流し、暗渠の流路は市道の地下をほぼ真南に流下する。建石町から再び三面張の開渠となり、直角に曲がりながら最下流の酒造地帯を流れて西宮港から大阪湾に注ぐ。川幅は下流の開渠部で6m程度であるが、その他の大部分は狭小である。

ニテコ池付近の丘陵地の他は大半が低平地である。流域内は、水源地のニテコ池と周辺丘陵地の一部に自然が残っているが、現在、流域の約99%が市街地である。

洗戎川流域の地質は、流域北部のニテコ池周辺は凝固度の弱い礫、砂、粘土からなる大阪層群、段丘礫層等の洪積層であり、ニテコ池の南側は主として夙川の氾濫により形成された沖積層である。

気候は瀬戸内海性気候に属し、年降水量は1,200mm～1,300mm程度と少ない。兵庫県の本州海側での降水量が2,000mm程度あるのと対照的である。平均気温は15.8℃と温暖である。

兵庫県の南東部では、台風期だけでなく梅雨期にも集中豪雨が発生しやすい。その原因として、湿潤な空気が南の海上から紀伊水道を経て、この地域に直接流入し、それが地形的に収束されるためであるとされている。これまでも台風期とともに梅雨期の記録的な大雨により大きな災害を引き起こしている。

洗戎川の歴史・文化には、洗戎川沿いに“えべっさん”の名で親しまれる西宮神社がある。

江戸時代になると“宮水”が発見され、酒造りが盛んになり、洗戎川の下流は、宮水酒造地帯となっている。

また、桜の名所満池谷は、野坂昭如の小説「火垂の墓」の舞台となった所である。

文化施設としては、西田公園に万葉植物苑がある。

第2節 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題

洗戎川の流域や沿川地域では、古くから台風、梅雨前線、高潮等により浸水を繰り返してきた。昭和の初めには、昭和9年の室戸台風で高潮による被害を受け、翌年昭和10年8月には豪雨によるニテコ池の決壊、昭和13年7月の阪神大水害でも浸水被害を受けた。

以降も、昭和36年6月の梅雨前線、昭和42年7月の梅雨前線の豪雨による浸水、昭和25年9月のジェーン台風、昭和36年9月の第2室戸台風等の高潮による浸水被害を繰り返している。

このため、昭和50年に都市小河川改修事業による改修工事に着手し、国道43号付近までを改修した。

洗戎川流域の下水道の雨水対策は、分流式の管渠整備による施設整備が概成している。

これまでに河川や下水道の整備等の治水対策が進められてきたが、一方、流域内の土地利用としては、高度成長期以降、都市化の進展により地表面の多くの部分が舗装されたため、地中に浸透したり、田畑に貯留されていた雨水が一気に河川に流出してくることとなった。このため、近年においても平成元年9月に時間雨量100mmを越す記録的豪雨に見舞われて被災したほか、平成11年6月の梅雨前線、9月の集中豪雨により浸水被害が発生している。これらの状況に加えて、人口・資産の集中に伴う浸水被害に対する社会的、経済的影響の増大や近年の集中豪雨等による内水被害の顕在化に対して、よりレベルの高い治水対策が必要となっている。

さらに、大阪湾に面した洗戎川は高潮の被害を受けやすく、昭和9年9月の室戸台風や昭和25年9月のジェーン台風、昭和36年9月の第2室戸台風等では、阪神電鉄以南の地域が浸水している。しかし、これまでに河川としての高潮対策は実施されておらず、今後対策が必要となっている。

さらに、近い将来発生が懸念される南海トラフ地震による津波対策も必要となっている。

2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題

最上流部の川幅は1～2m程度である。植生は西宮神社の垣根沿いや民家の植え込み等に僅かに存在する程度で、魚類の生息も確認されていない。沿川の西宮神社の周辺では、メジロやコゲラ等の鳥類やアオスジアゲハやカナブン等の昆虫類が確認された。西宮神社の境内に保全されているクスノキやクロマツ等の樹林が、これらの生物の生息に寄与していると考えられる。

西宮神社の下流から建石町にかけては暗渠河道である。地表面は道路として利用されている。建石町から下流の開渠区間は三面張の河道が整備されている。河口には防潮樋門が整備されているが、平常時閉鎖されているために河口付近は淡水の閉鎖性水域となっている。この水域ではカダヤシ等の魚類が確認された。

流域のほぼ全域が市街地で、下水道により集水されていることから平常時の河川水量は少ない。また、農業用水等の既得水利権もなく、河川水は利用されていない。

水質については、下水道整備が進んだことにより近年のBOD(75%値)は1～3(mg/l)程度で推移している。

第3節 河川整備計画の目標

1. 河川整備計画の対象区間

本整備計画の対象は、洗戎川水系の全ての法定河川とする。

2. 河川整備計画の対象期間

本河川整備計画の対象期間は、計画策定から概ね20年間とする。

3. 洪水、高潮、津波等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

河川の改修や洪水調節施設の整備、下水道の管渠整備や雨水貯留施設の整備等の総合的な治水対策により、20年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守ることを目標とする。

また、高潮^{※1}及び津波^{※2}時の浸水被害の防止を図る。

さらに、改修途上段階における施設能力以上の洪水等や整備目標流量を上回るような洪水等の発生に対しては、自治体、地域住民等と密接な連絡や協力を保ち、地域の水防活動を支援し、被害の軽減に努める。

※1) 計画高潮位 T.P.+3.6m

※2) 「西宮・今津地区」において発生する頻度が高い津波（レベル1津波）水位 T.P.+3.0m

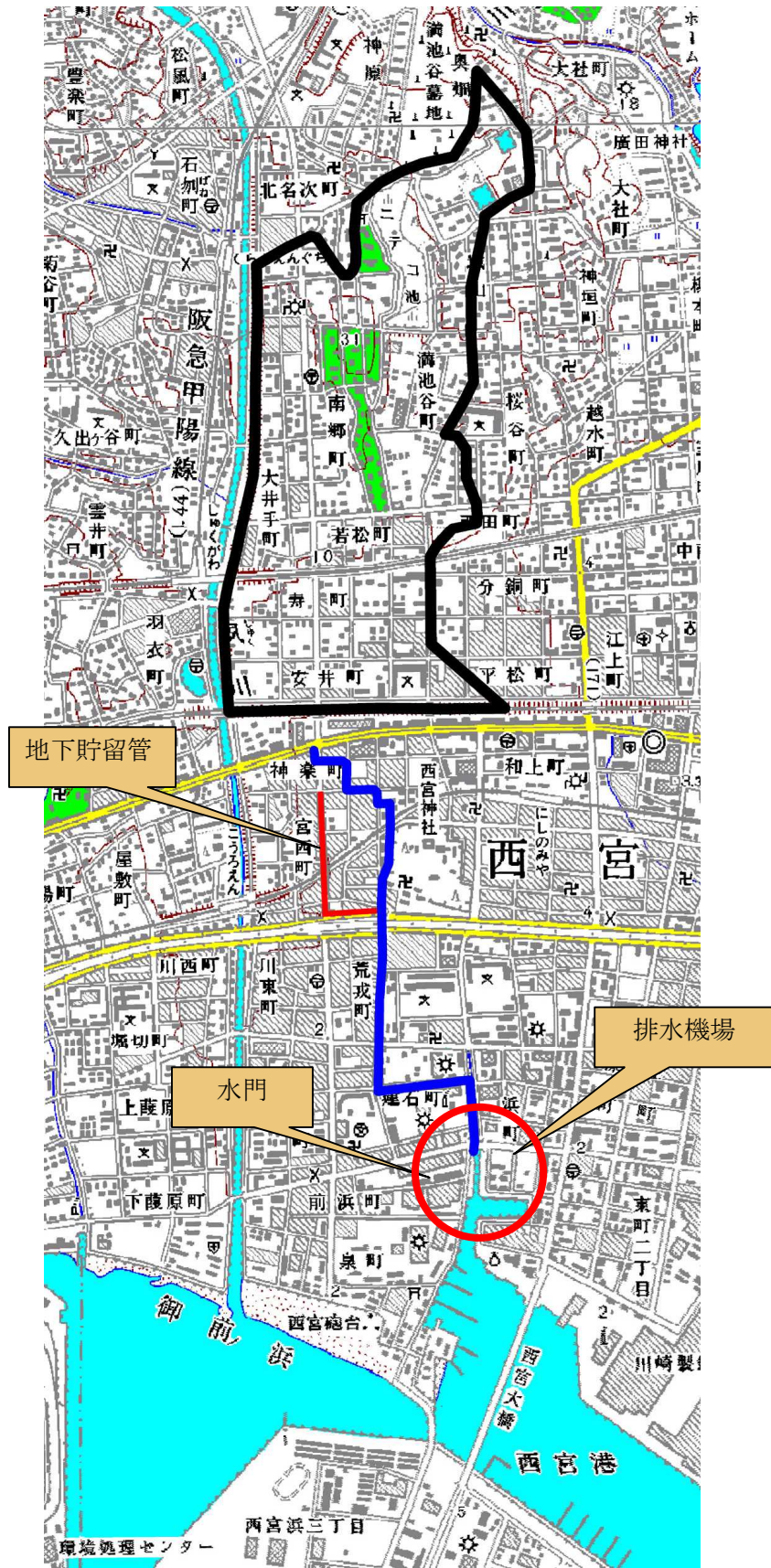
〔津波防災インフラ整備計画（平成27年6月 兵庫県）〕

4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する目標

現在、河川水の利用はないが、震災等の緊急時には、利用されるよう配慮する。

水質については、今後も関係機関と連携し、改善に努める。ゴミの不法投棄等についても、定期的に河川の状況を確認し、防止等に努める。また、地域住民が河川愛護活動に積極的に参加するよう、広報活動に努める。さらに、突発的な水質汚濁に対しては、関係機関と協力し適切に対応する。

また、今後も動植物の生息状況等について、モニタリング調査を行い、河川環境の把握に努める。



計画的に河川工事を行う区間

第2章 河川整備計画の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所

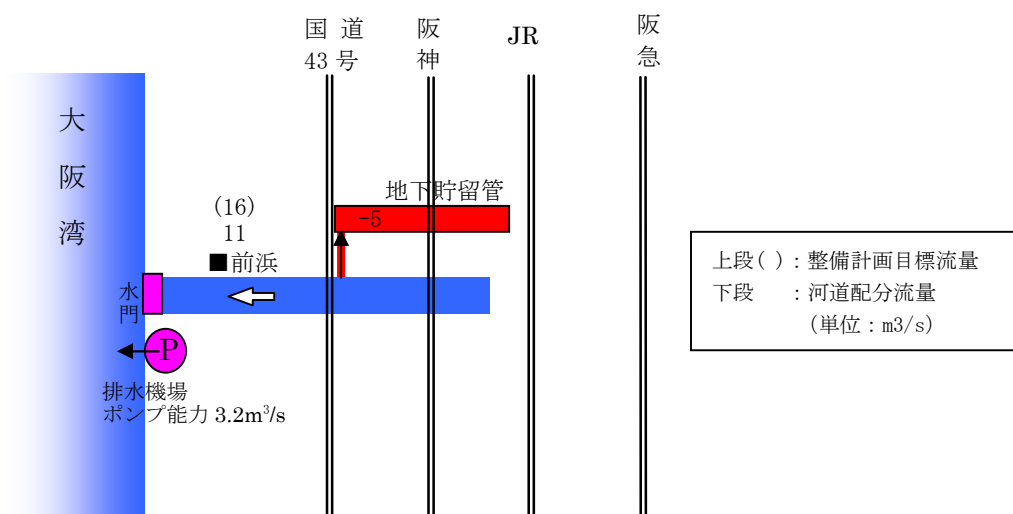
洪水対策（洪水調節施設）として、国道43号付近の都市計画道路建石線の地下に貯留管を設置する。

高潮及び津波対策として、河口部に水門を設置する。

高潮対策として、河口部に排水機場を設置する。

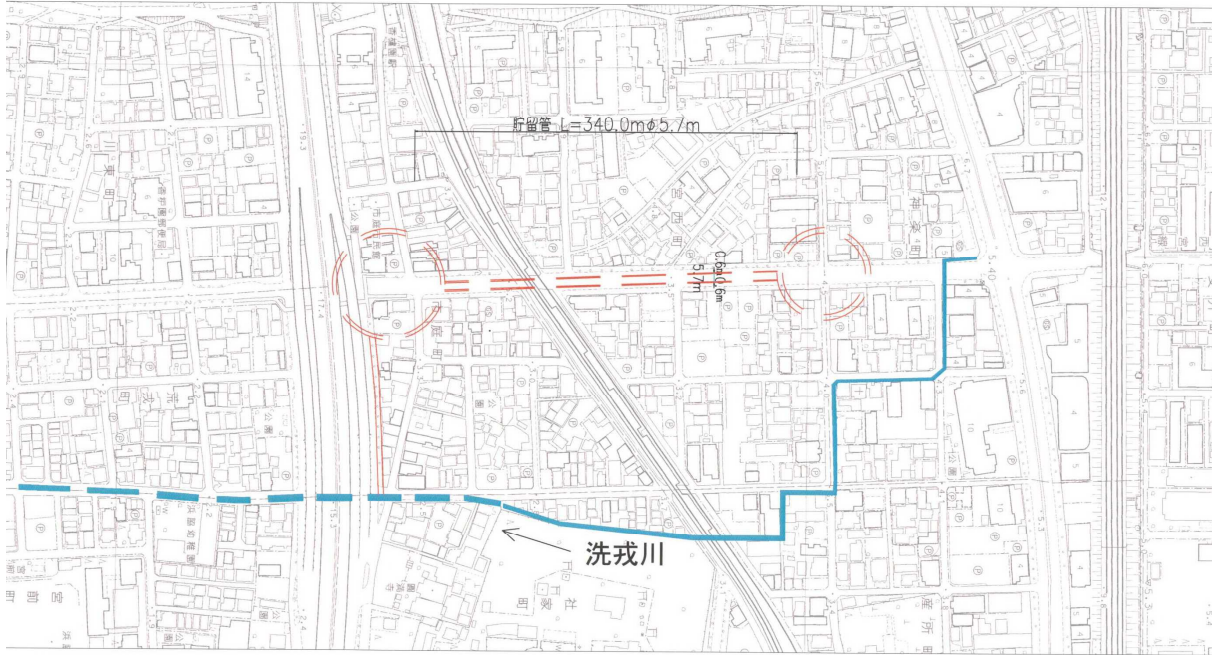
河川工事の施行の場所及び主な内容

施行場所	主な施行内容
国道43号付近	地下貯留管の設置
河口部	水門の設置
河口部	排水機場の設置

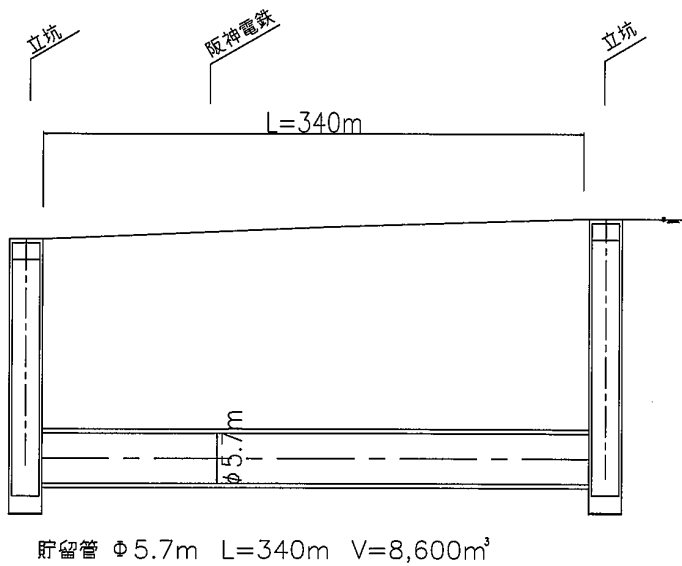


流量配分図

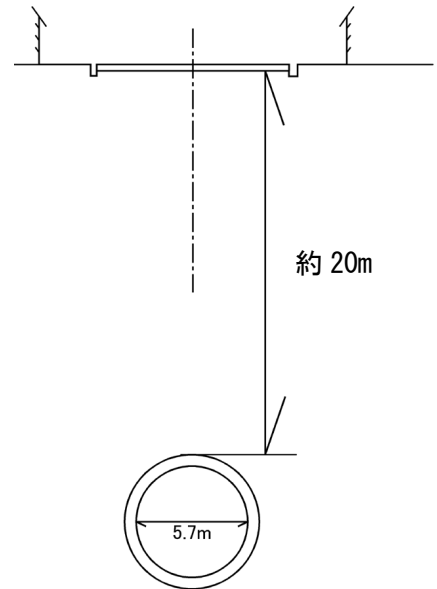
洗戎川・地下貯留管



平面図



縦断面図



横断面図

第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所

災害発生防止、河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全を考慮して、河川管理施設を適切に維持管理するため、具体的に下記の事項に努めるものとする。

(1) 河川管理施設の維持管理

河川管理施設の機能を十分に発揮させることを目的として、堤防、護岸及び他の河川工作物等の定期的な巡視、点検、整備を行うとともに、高潮排水機場等の機能低下を防止するため、機器の更新、補修を行う。

また、大雨、洪水、台風等により災害が予想される場合や出水後は、巡視を強化し、異常箇所を早期に発見し、その対策を行う。

(2) 堆積した土砂等の管理

地下貯留管内に堆積した土砂等は、洪水時調節機能を阻害するおそれがあるため、必要に応じて除去等の維持管理に努める。

(3) 河川情報の高度化及び提供

洪水に備えるための雨量情報をインターネット等で市民に提供し周知に努める。また、関係機関と連携してこれらの情報の強化・拡充に努める。

(4) 水量・水質の監視等

適正な河川管理のために、日常的に雨量・水量を把握するとともに、定期的に水質を把握し、必要に応じて地域に情報提供する。また、河川巡視や関係機関との連携により、水質事故等の早期発見と適切な対処に努める。

第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

(1) 下水道等との連携

現在、下水道による雨水対策としては、年超過確率概ね 1/6 の安全度を確保しているが、市街化の進展による雨水流出量の増大や集中豪雨に対して十分でなく、近年においても浸水被害が発生している。

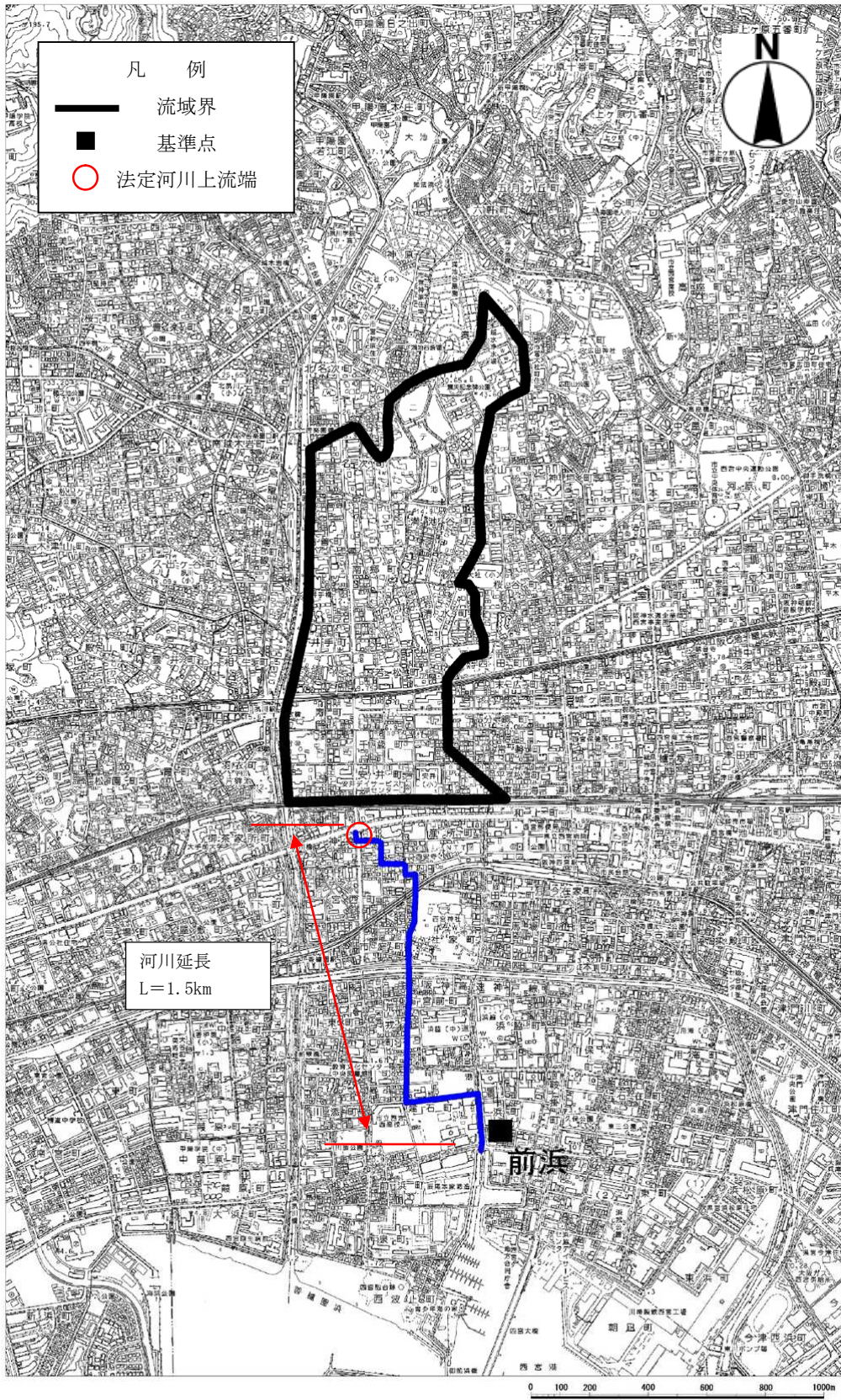
この対策として、下水道管理者である西宮市の下水道計画では、管渠整備とあわせて学校や公園を利用した雨水貯留施設の整備等により雨水対策の強化を図ることとしている。

洗戎川流域では、当該下水道計画と連携し、総合的な治水対策に取り組んでいくこととしている。今後、河川工事にあたっては、具体的な整備スケジュール等を西宮市と十分に調整、連携して、効率的に整備できるよう努めることとする。

また、総合的な治水対策を推進する観点から、流域からの雨水流出を抑制するため、都市・農林・環境等に関係する分野の機関並びに地域住民・団体・企業等との連携に努める。

(2) 防災意識の向上

地域住民一人一人が防災意識を高め、洪水時には迅速かつ的確に警戒・避難する必要がある。このため、情報伝達体制及び警戒避難態勢を整備するとともに、ハザードマップ作成を支援し、地域住民に情報提供する。



洗戎川水系図